

2023年10月18日

各 位

大阪中小企業投資育成株式会社  
代表取締役社長 小林 利典  
(大阪市北区中之島3-3-23)

## 投資先企業景況アンケート結果の発表

下記の通り、当社投資先企業に対して景況アンケートを実施いたしました。  
結果については次頁以下をご覧ください。

調 査 時 点 : 2023年9月中旬

調査対象先 : 当社投資先企業1,179社

回 答 数 : 626社

回 収 率 : 53.1%

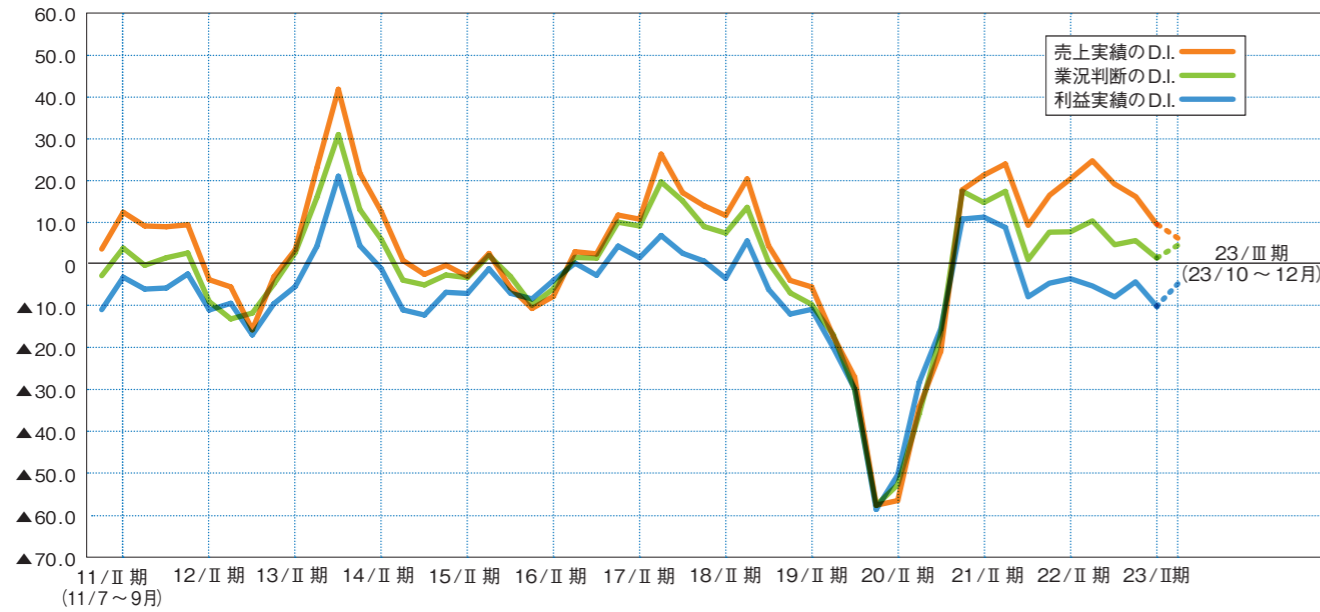
---

◇本発表に関するお問い合わせ先 事業ソリューション部 福山 裕人 電 話 : 06-6459-1700 メー ル : pr@sbic-wj.co.jp
---

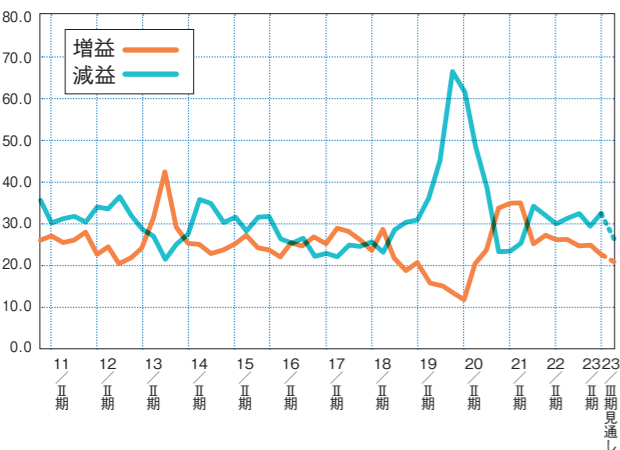
## 各指標とも悪化するも、先行きは改善を見込む

投資先企業の2023年度第2四半期景況アンケートによると、2023年7～9月は売上実績D.I.、業況判断実績D.I.、利益実績D.I.の全ての指標が悪化した。次期は中国の景気リスクや長期化するウクライナ紛争、混迷する中東情勢など世界経済の減速への懸念はあるものの、価格転嫁の進展や需要回復への期待から景況感は改善すると見込んでいる。

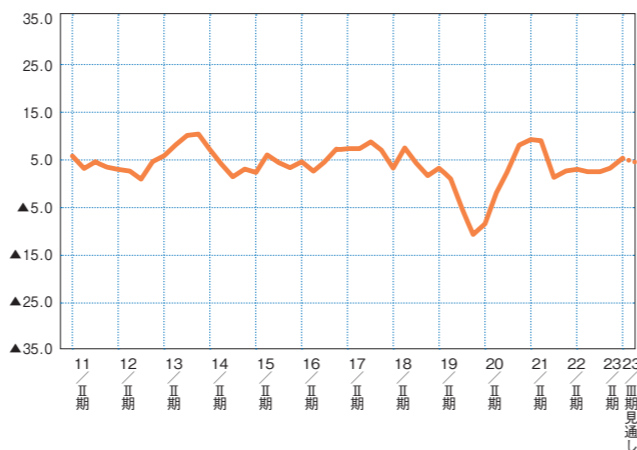
売上及び利益実績・業況判断のD.I. (前年同期比) の推移



利益実績の増減益割合 (前年同期比) の推移



資金繰り実績のD.I. (前年同期比) の推移



① 2023年7～9月期の売上実績D.I. (増収企業割合-減収企業割合)は前期の16.6から9.7へ、利益実績D.I.(増益企業割合-減益企業割合)は▲4.6から▲10.2へ、業況判断実績D.I.(好転企業割合-悪化企業割合)は5.1から1.3と、各指標とも悪化した。

円安による原材料高の影響や海外経済の減速などで、大企業に比べて中小企業の回復が遅れているとみられ、利益実績D.I.と業況判断実績D.I.はそれぞれ5.6ポイント、3.8ポイント減少となり、ともに悪化に転じた。売上実績D.I.は3期連続で悪化した。

② 利益実績D.I.を業種別推移表で見ると、2023年6～9月は繊維と化学・合成樹脂

の2業種がプラス圏となっている一方、建材・金物、電気機器がマイナスに転じ、全体では9業種がマイナス圏となった。

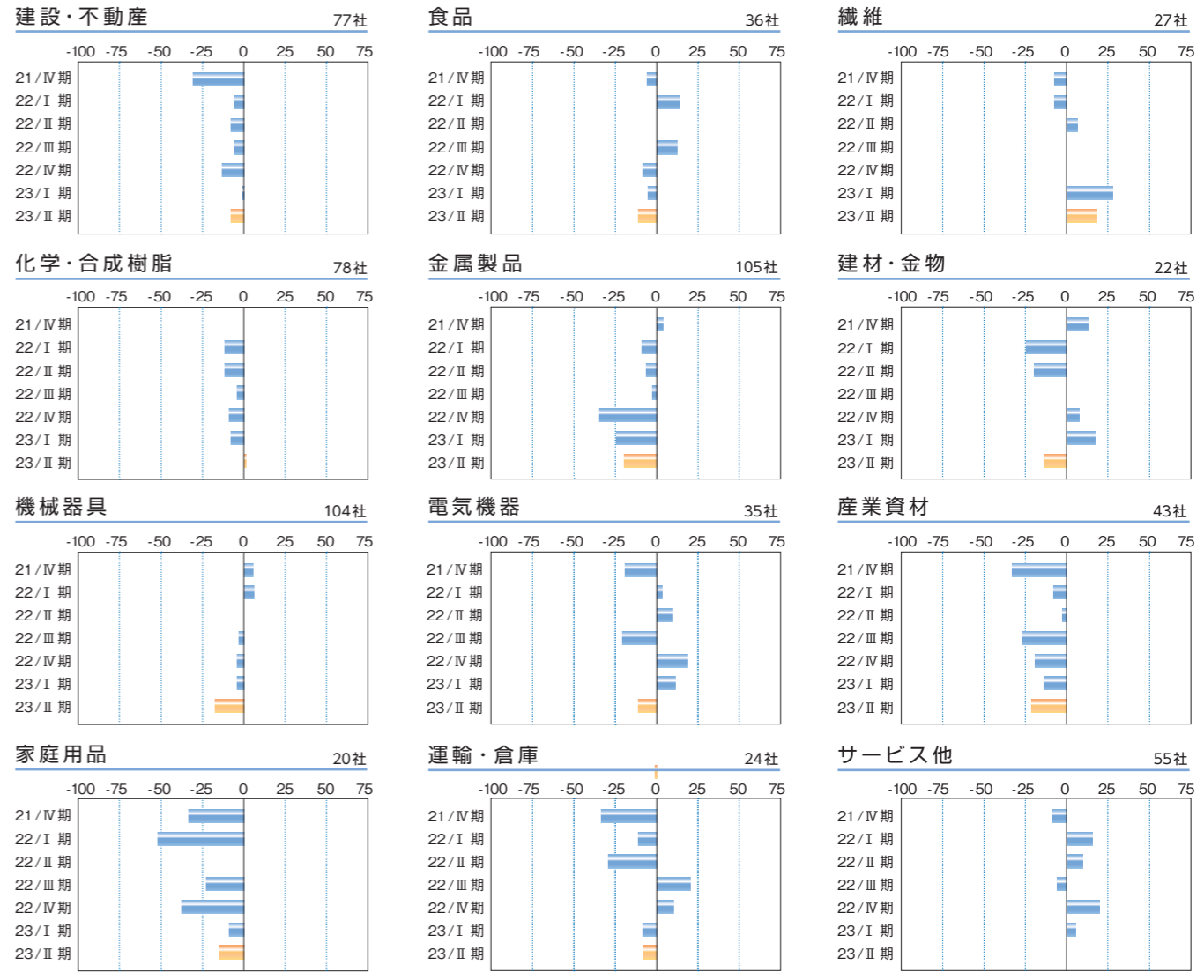
③ 2023年の10～12月期の見直しD.I.は、2023年7～9月期と比較して売上実績D.I.が9.7から見直し6.0へ、利益実績D.I.が▲10.2から見直し▲5.0へ、業況判断D.I.が1.3から見直し4.4となり、利益実績D.I.と業況判断実績D.I.は改善を見込んでいる。また利益実績の増減割合で見ると、増益を見通す企業は1.3ポイント減少の21.2へ低下し、減益を見通す企業は6.5ポイント減の26.2へ低下した。

なお、9月調査の日銀短観によると、自動車生産の回復が進み、大企業製造業の業況

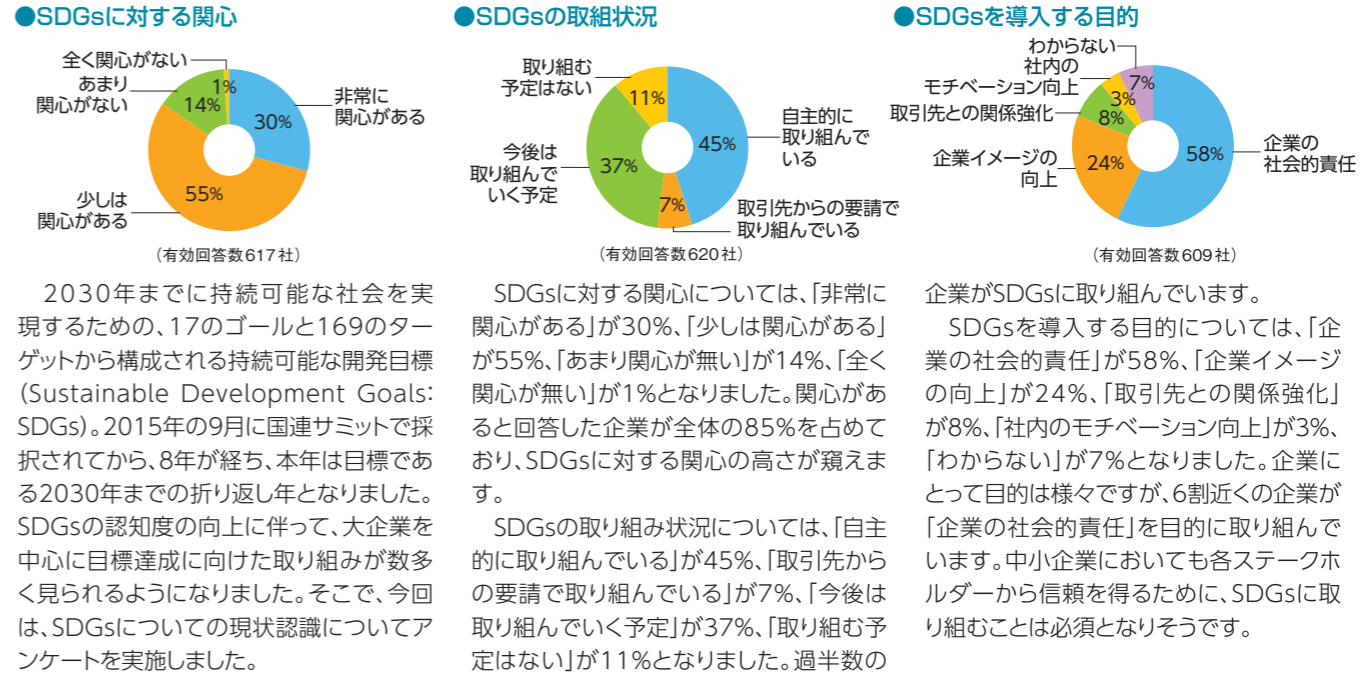
判断は2期連続で改善した。一方、大企業非製造業は、新型コロナウイルスの影響が和らぎ、インバウンド需要の影響も受けて6期連続での改善となり、1991年11月調査時以来の高水準となった。

中国経済の景気リスクや長期化するウクライナ紛争、混迷する中東情勢など海外経済の減速への懸念があるものの、価格転嫁の進展や経済活動正常化に伴う需要の回復などへの期待から景況感は改善すると見込んでいる。中小企業にとって人件費の上昇が重石になるが、好調な大企業からの波及効果もあって利益の持ち直しが期待される。

主要業種別利益実績のD.I. (前年同期比) の推移



## SDGsについてのアンケート結果



2030年までに持続可能な社会を実現するための、17のゴールと169のターゲットから構成される持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)。2015年の9月に国連サミットで採択されてから、8年が経ち、本年は目標である2030年までの折り返し年となりました。SDGsの認知度の向上に伴って、大企業を中心に目標達成に向けた取り組みが数多く見られるようになりました。そこで、今回は、SDGsについての現状認識についてアンケートを実施しました。

SDGsに対する関心については、「非常に関心がある」が30%、「少しは関心がある」が55%、「あまり関心がない」が14%、「全く関心がない」が1%となりました。関心があると回答した企業が全体の85%を占めており、SDGsに対する関心の高さが窺えます。

SDGsの取り組み状況については、「自主的に取り組んでいる」が45%、「取組先からの要請で取り組んでいる」が37%、「取組む予定はない」が11%となりました。過半数の

企業がSDGsに取り組んでいます。「企業の社会的責任」が58%、「企業イメージの向上」が24%、「取組先との関係強化」が8%、「社内のモチベーション向上」が3%、「わからない」が7%となりました。企業にとって目的は様々ですが、6割近くの企業が「企業の社会的責任」を目的に取り組んでいます。中小企業においても各ステークホルダーから信頼を得るために、SDGsに取り組むことは必須となりそうです。